

ふじのくに 静岡みなと通信

vol.20
夏10号
2013.8.1



平成25年5月25日に供用開始した清水港新興津コンテナターミナル第2バース

～目次～

- 静岡みなと通信「夏10号」発行に
寄せて(富士市長)…………… 1
- 静岡県港湾振興会の活動報告 …… 1
- 「平成25年度港湾関係予算の概要」… 2
- 「新たな地震・津波対策」…………… 5
- みなとニュース …………… 7
- みなと自慢(宇久須港)…………… 11
- 港こぼれ話…………… 13
- 港湾関係行事予定 …………… 15



清水港新興津コンテナターミナル第2バースに初入港したコンテナ船

静岡みなと通信「夏10号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会副会長
富士市長 鈴木 尚

周りを海に囲まれている海洋国家の日本において、本県は全国有数の海上輸送拠点として大きな役割を担っており、港湾は本県の産業を支え県民の生活の豊かさや安定をもたらしております。また、南海トラフ巨大地震による想定される災害時においても、東西に長い静岡県の陸上輸送路に代わる緊急支援物資の搬入基地としても港湾に期待される役割は大きなものであり、災害に強い港湾整備が喫緊の課題となっております。

このような中、当市の田子の浦港では、国際物流ターミナルとしての整備が順調に進み、今年度で中央航路・泊地の水深12メートルへの増深工事が完了予定となっております。昨年開通した新東名高速道路とのアクセス環境も優れていることから、本県の海上輸送拠点として今後も重要な役割を担っていくことを期待しております。

また、田子の浦港の魅力をより多くの方々に認知していただき、新たな顧客の開拓と一層の利用促進を図るためにも、ポートセールス活動を積極的に行う所存であります。

私たち「静岡県港湾振興会」は、今後も皆様と共に港湾整備や、利用促進を積極的に展開する活動を行ってまいります。皆様方には、今後とも港湾の発展に向けより一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



田子の浦港(写真提供:富士市)



田子の浦漁港より望む富士山(写真提供:富士市)

静岡県港湾振興会の活動報告

日本港湾協会の平成25年度定時総会に出席

平成25年5月22日、福井県敦賀市のプラザ萬象で日本港湾協会の総会が開催され、当振興会からは石原茂雄副会長(御前崎市長)、中野弘道焼津市長をはじめ、12名が出席しました。

総会では、港湾功労者表彰式が行われ、芦川弘之様((株)ニュージエック中部支店静岡事務所技術部長)、稲垣秀敏様(五洋建設(株)名古屋支店調査役)、田村一夫様(河津建設(株)沼津支店技術部長)が受賞されました。



定時総会

平成25年度 港湾関係予算の概要

災害に強い地域基盤の整備、交流を支えるネットワークの充実及び陸・海・空の交通ネットワーク機能の拡充を目指し、「活力・交流」「安心・安全」「環境・景観」の基本方針に基づいて、良質な社会資本整備を重点的・効果的に実施する平成25年度静岡県予算を編成しました。

県では、「駿河湾港」を構成する清水港、田子の浦港、御前崎港の連携を深めて国際競争力を強化するとともに、地方港湾の整備により地域産業の活性化を図る一方、防潮堤などの海岸保全施設の早期整備を推進し防災機能を強化してまいります。また、港湾施設の長寿命化の推進に取り組むとともに、民間活力の導入、コスト縮減なども引き続き推進してまいります。

港湾関係事業の重点施策と主要事業

：【活力・交流】～活力・交流の基盤となる陸・海・空のネットワーク形成～

◎国際海上コンテナターミナルの整備

- コンテナターミナルの防波堤の整備を行います。 7億0,200万円
【港湾改修事業(国直轄施工)】清水港 新興津地区第2バース
- 岸壁や臨港道路の改良を行います。 6,400万円
【港湾改修事業】清水港 日の出地区 江尻地区
- コンテナターミナルのヤード整備や背後の流通・保管施設用地の造成を行います。 16億7,000万円
【起債事業[ふ頭用地整備、臨海部土地造成、荷役機械整備]】清水港 新興津地区第2バース



清水港新興津地区整備状況



新興津地区コンテナクレーン整備状況

◎国際物流ターミナルの整備

- 港内の静穏度を向上させる防波堤を整備します。 7億8,000万円
【港湾改修事業(国直轄施工)】御前崎港 女岩地区



御前崎港全景
(写真提供:清水港湾事務所)



御前崎港防波堤整備状況
(写真提供:清水港湾事務所)

- 船舶の大型化に対応するため、泊地や航路の水深を深くします。 3億円
【港湾改修事業(国直轄施工)】田子の浦港 中央地区
- 埠頭用地の舗装や上屋の耐震補強などの整備を行います。 2億3,700万円
【起債事業(埠頭用地整備、上屋整備)】田子の浦港
- 泊地の埋塞浚渫や臨港道路などを整備します。 1億8,200万円
【港湾改修事業】田子の浦港 港内地区・中央地区



田子の浦港全景
(写真提供:清水港湾事務所)



臨港道路7号線の整備状況
(田子の浦橋架け替え状況)

- 港内の底質に含まれるダイオキシン類を除去し、生活環境の改善を図ります。 8億円
【公害防止対策事業】田子の浦港

◎競争力のある、使いやすい港づくり

- 港湾競争力の向上を図るため、ポートセールス・ポートセミナーの開催や港湾使用料の減免措置(インセンティブ)の導入などを行います。 2,900万円
【港湾企画振興費】清水港、御前崎港



田子の浦港泊地浚渫状況
(写真提供:清水港湾事務所)

- 利用促進体制の構築や地域振興戦略の検討を行います。 1,500万円
【港湾調査】 御前崎港

◎地域連携・観光振興等を通じた地域の活性化

- 不足している岸壁、物揚場の整備を進め、地域産業の振興を図ります。 1億3,500万円
【港湾改修事業】伊東港、下田港



下田港整備状況

- 岸壁や臨港道路、跨線橋、船揚場などの改良を行います。 1億5,100万円
【港湾改修事業】清水港、田子の浦港、御前崎港、熱海港、伊東港、下田港、松崎港、沼津港、浜名港

- 港振興に取り組む港湾所在市と協調し、小型船だまりの整備を行います。 2億5,200万円
【港湾改修事業】清水港 新興津地区



伊東港整備状況

⚡【安全・安心】～安全社会を目指す総合的な交通安全対策の推進～

- 小型船舶等が利用する係留施設を補修します。 7,000万円
【港湾改修事業】清水港 三保地区

⚡【安全・安心】～地震災害対策の推進、風水害対策の推進～

- 避難船舶を守り、津波低減効果が期待できる防波堤の整備を行います。

9億円

【港湾改修事業(国直轄施工)】下田港



下田港防波堤整備状況
(写真提供:清水港湾事務所)

- 津波や台風などによる高潮・高波から、生命財産を守る防潮堤や津波避難施設を整備します。

また、水門や陸閘を遠隔化・自動化して、一元管理できるようにします。

4億7,800万円

【海岸保全(高潮対策)事業】清水港海岸、御前崎港海岸、沼津港海岸、宇久須海岸



御前崎港海岸津波対策

⚡【環境・景観】～自然と共生の推進～

- 海岸の背後に、親水広場や高台などを整備します。

7,200万円

【海岸環境整備事業】熱海港、榛原港



熱海港海岸渚地区の利用状況

⚡【環境・景観】～美しい景観の保全と創造～

- 港湾を訪れる人々や地域の皆様が利用する快適な広場・公園の整備を行います。

1億5,400万円

【港湾環境整備事業】清水港、田子の浦港



田子の浦港富士緑地の利用状況

新たな地震・津波対策

平成23年3月11日に発生した、日本の地震観測史上最大の東北地方太平洋沖地震と東北・北関東の沿岸部各地を襲った大津波による被害から2年以上が経過しました。

昭和51年(1976年)に東海地震説が発表されてから、東海地震対策を県政の最重要課題の一つとして位置づけ、積極的に地震対策に取り組んできた静岡県では、我が国の地震観測史上最大の巨大地震、そして平成23年12月に内閣府から南海トラフ巨大地震のモデルが提示されたことを受け、現在新たな地震被害想定の実施、新たな地震・津波の行動計画策定に取り組んでいます。

今回は改めて、これまでの経過と新たな地震・津波対策、について紹介します。

新たな地震被害想定に向けて

効果的な地震対策を実施するためには、地震によって引き起こされる地震動や津波などの自然の外力と被害の様相を事前に予測しておくことが必要不可欠です。

このため本県では、社会環境の変化や地震災害に関する科学的な知見の蓄積などに応じて、“昭和53年(1978年)、平成5年(1993年)、平成13年(2001年)”の3回にわたり地震被害想定を行い、地震対策を効果的に進めるための基礎資料として活用してきました。

平成23年3月11日に発生した我が国の地震観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震「東北地方太平洋沖地震」と、それまでの想定を大幅に上回る巨大な津波などにより東日本太平洋岸の広範な地域に甚大な被害をもたらした「東日本大震災」は、津波対策のあり方はもとより、“既往最大クラスの地震”を想定対象としてきた地震被害想定のある方に対しても、新たな課題を提起するものとなりました。

本県では、東日本大震災の直後から、津波対策の総点検を行い、新たな行動計画として「ふじのくに津波対策アクションプログラム(短期対策偏)」を同年9月に取りまとめ、沿岸市町等と連携・協力しながら、海岸での避難階段の整備や直ちに取り組むべき津波対策を実施してきました。

さらに、平成24年2月に「静岡県第4次地震被害想定策定会議」を設置。発生頻度は比較的高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす地震・津波を「レベル1の地震・津波」とし、発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの地震・津波を「レベル2の地震・津波」とし、この二つのレベルの地震・津波による自然の外力や、それがもたらす被害の様相を第4次地震被害想定として取りまとめる作業を行ってきました。

そして昨年12月には「今後の地震・津波対策の方針」を決定し、2つのレベルの地震・津波対策の方向性を示すとともに、本年2月には第4次地震被害想定の中間報告を公表しました。



焼津漁港の築山(避難施設)



榛原港の避難階段

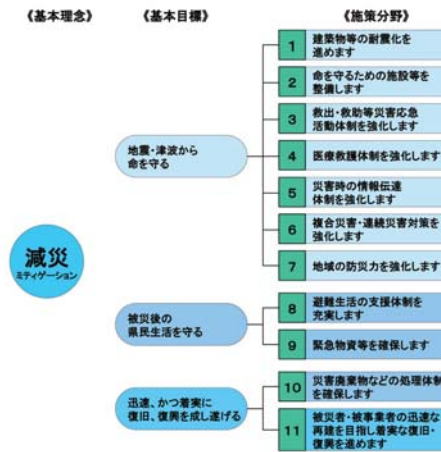
第4次地震被害想定(第一次報告)の公表

本年6月27日の県防災会議にて第4次地震被害想定(第一次報告)を公表しました。

今回の第一次報告では、駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いで発生するレベル1とレベル2の地震・津波による震度分布や津波高、浸水域等の自然現象の想定結果と、その地震・津波による人的被害、物的被害の想定結果を取りまとめて提示するとともに、これらの結果を基に、中間報告においてその骨子を示した「被害・対応シナリオ想定」を肉付けし、シナリオの項目毎に具体的な被害と必要な応急対応等を整理したものを示しています。また、推計された被害を軽減するための防災・減災の具体的な行動計画となる「地震・津波対策アクションプログラム2013」も提示したところです。

なお、ライフラインや交通施設等の被害、経済被害等については、中央防災会議が本年3月18日に公表した「南海トラフ巨大地震による施設等の被害や経済被害」との整合を図りながら、本県における被害等を推計する必要があることから、本年秋頃に、別途、これらの想定結果を第二次報告として公表する予定です。

静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013



平成25年6月

アクションプラン2013の表紙

地震・津波対策アクションプログラム2013の実施

アクションプログラムでは、第4次地震被害想定を踏まえ人命を守ることを最も重視し、地震・津波対策をハード・ソフトの両面からできる限り組み合わせることで充実・強化することにより、想定される被害をできる限り軽減すること、いわゆる「減災」を目指します。その基本目標は以下の3つです。

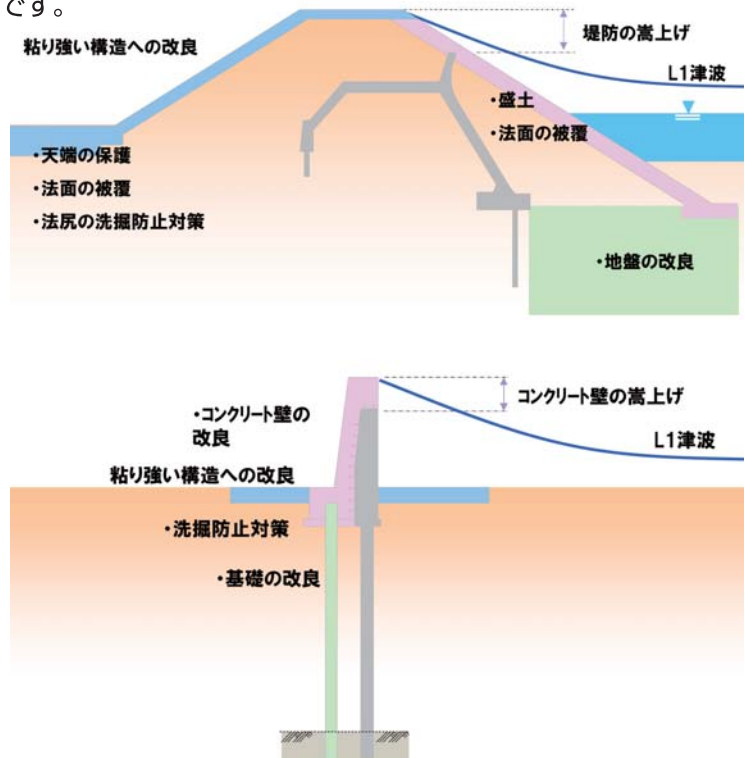
- 1.地震・津波から命を守る
- 2.被災後の県民の生活を守る
- 3.迅速、かつ着実に復旧、復興を成し遂げる

そして、以下が減災目標です。

一人でも多くの県民の命を守る

特に、海岸に整備する“津波を防ぐ”ための堤防やコンクリート壁については、その嵩上げ等の対策実施により、「レベル1の地震・津波による人的被害を平成34年度までの10年間で8割減らす。」ことを数値目標として設定したところです。

東北地方太平洋沖地震からはや2年経ちましたが、今これからすべきことを纏め上げ、本格的な対策実施へと進んでまいります。



施設改良のイメージ(上段:堤防/下段コンクリート壁)



みなとニュース



清水港に客船2隻同時寄港

3月23日(土)早朝、うっすらと富士山が見える中、清水港日の出埠頭にドイツ客船「アマデア」が入港しました。「アマデア」は、郵船クルーズが運航していた初代「飛鳥」で、昨年に続いて2度目の入港です。

続いて「ふじ丸」も入港し、客船が日の出埠頭に2隻並びました。地球を約20周、50万人の人に愛された「ふじ丸」は最後の清水港入港となり、その後25年間の運航を終えて今年6月に引退しました。

寄港中は歓迎セレモニーのほか、お茶会、着物の着付体験、次郎長道中など、日本の伝統文化を体験できるさまざまなイベントが開催され、多くの乗客と客船ファンでにぎわいました。また、富士山写真展も行われ、四季折々の富士山の美しい姿に感動の声も聞かれました。

「アマデア」出港時には、多くの乗客が吹奏楽の演奏に合わせて手拍子や拍手をし、和やかな雰囲気の中に出港していきました。



クルーズ船「ふじ丸」



お茶会の様子

沼津港を代表する海の祭典、「沼津水産祭」を開催

魚食普及、沼津港の賑わい創出を目的に毎年行われている「沼津水産祭」が今年で41回目を迎え、平成25年5月18日に沼津港の沼津魚市場イーノと第一市場をメイン会場にして行われました。

会場では様々なイベントが行われ、なかでも一番の盛り上がりを見せたのは毎年恒例となっている体験さかなセリ市です。普段味わえないセリの醍醐味を楽しめるとあって、子供から大人まで大勢の来場者が参加し、威勢の良い掛け声で新鮮な魚介類を競り落としました。

その他にも、水産物が当たる輪投げ等のゲーム、あじの釣堀、カツオ節バックのつかみ取り、ひものや朝獲れ生しらすの試食なども人気があり、順番待ちの長い行列ができました。また、鮮魚が廉価で提供され、朝8時の販売開始前から買い求める来場者で溢れました。

さらに、特別イベントとして帆船Ami号の体験乗船が併せて行われるなど、およそ5万人の来場者が海を身近に感じることができる沼津港ならではのイベントを満喫しました。



魚を手にしたセリ人と参加者の掛け声が響きあう「体験さかなセリ市」の様子



帆船Ami号への体験乗船

清水港新興津コンテナターミナル第2バースの供用を開始



清水港の新興津コンテナターミナル第2バースが完成したことから、国土交通省中部地方整備局・静岡県・静岡市は、平成25年5月25日に供用開始式典を開催しました。

式典には、主催者である国土交通省中部地方整備局長、静岡県知事、静岡市長に加え、国会議員、県議会議員、市議会議員、国土交通省港湾局長、船社・荷主・港運会社関係者などの来賓を含めた約180人が参加し、来賓者から挨拶をいただきました。引き続き、テープカットと同時にスーパーガントリークレーンの始動を行い、供用開始を祝いました。

平成15年に供用を開始した第1バースに連続する第2バースは、水深15m、延長350mで、1万TEUクラスの超大型コンテナ船の荷役が可能な18列6段積み対応のスーパーガントリークレーン2基を備えています。

この第2バースの完成により、新興津埠頭に大型コンテナ船2隻が同時に接岸可能となったことから、荷役の効率化やコスト縮減が図られるとともに、清水港全体のコンテナ取扱能力が年間60万TEUから約100万TEUへと大幅に向上します。

また、大規模地震発生時には、幹線物流機能を維持し地域経済への影響を軽減するため、第2バースは耐震強化岸壁と免震構造の荷役機械を採用しました。

静岡県では、今後第2バース背後のコンテナヤードを早期に供用できるよう、整備を進めていきます。



5月28日、供用開始後初入港した
コンテナ船「WESTWOOD OLYMPIA」



川勝知事による主催者挨拶



供用開始を祝う矢倉太鼓保存会による演奏

「駿河湾港アクションプラン」推進計画検討委員会

県では、清水港・田子の浦港・御前崎港を「駿河湾港」ととらえ、3港の機能分担と相互補完による一体的な利活用についてビジョンを示した「駿河湾港アクションプラン」を平成23年3月に策定しました。このアクションプランを踏まえた総合的な長期整備構想として『「駿河湾港アクションプラン」推進計画』を策定することとし、平成24年9月から検討委員会を開催しています。

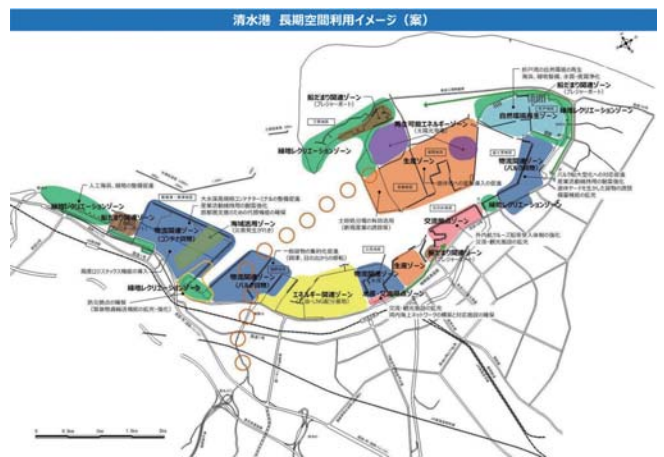
委員会は、学識経験者や港湾業界団体、行政機関からなり、「物流・産業」、「防災・危機管理」、「交流・生活・環境」の機能ごとに3部門に分かれて検討を進め、現状の課題、基本方針と取組施策、整備構想等を取りまとめています。委員会での検討内容は県港湾局のホームページで公開しています。

平成25年3月までに3回の委員会が開催され、駿河湾港の目指すべき将来像として、～新しい時代にふさわしい日本の玄関～『スマート・ポート駿河湾』が示されました。また、より具体的な方向性を示すイメージとして、主な取組施策の展開イメージ、機能分担と連携のあり方、各港の長期空間利用イメージ(ゾーニング案)が提案されました。

本年度は2回の委員会の開催を予定しており、短・中・長期的対応の仕分けや、実現に向けた方策のとりまとめを実施し、平成26年3月に推進計画を策定する予定です。



駿河湾港の将来像『スマート・ポート駿河湾』



清水港のゾーニング案



田子の浦港のゾーニング案



御前崎港のゾーニング案

御前崎港で「再生可能エネルギー」の活用を検討します

静岡県は、安全・安心で持続可能なエネルギー体系の構築を目指し、豊かな自然資源を活かしたエネルギーの地産地消を推進しています。その一環として、「駿河湾港アクションプラン」推進計画検討委員会において、“港湾における再生可能エネルギー利用の促進”を駿河湾港の取組み施策の一つとし、御前崎港の第一線防波堤の外洋に、洋上風力発電や波力発電等を導入する「再生可能エネルギーゾーン」を位置付けることを検討しています。

この「再生可能エネルギーゾーン」を効果的に活用する方策について、民間企業や研究機関等による多様な発想から生み出されるプロジェクトを一般募集しました。今後、提案されたプロジェクトを参考に、御前崎港の港湾計画の変更(一部変更)や、事業予定者の公募を行っていきます。



御前崎港の再生可能エネルギーゾーン

駿河湾港物流促進戦略の策定

静岡県は、駿河湾港(清水港・田子の浦港・御前崎港)のより一層の利用促進に向けた実効性のある物流促進戦略として、「駿河湾港物流促進戦略」を策定しました。

この戦略は、駿河湾港を取り巻く物流の現況及び変化を踏まえて諸課題を明確化するとともに、その課題にどのように対応すればよいか、との視点で基本戦略及び個別プログラムを取りまとめたものです。

コンテナ貨物、バルク(ばら積み)貨物、RORO(貨物専用フェリー)貨物を「集荷」、「創貨」していくため、平成25年度から平成29年度までの5年間、駿河湾港物流促進戦略に基づき官民の連携・協働により各種施策を推進してまいります。

◆駿河湾港物流促進戦略の特徴

- ・対象港湾は、清水港、御前崎港、田子の浦港
- ・対象貨物は、コンテナ、バルク、内貿RORO
- ・官民連携・協働によりプログラムを推進
- ・戦略実施期間は、平成25年度から平成29年度までの5年間

「駿河湾港物流促進戦略」の重点プログラム

I. 輸入コンテナ貨物の誘致【集荷】

- ①東アジア、東南アジア航路の航路網の拡充
- ②広域物流機能の強化
- ③交通アクセス向上による内陸県や首都圏貨物の誘致

II. 新規バルク貨物の誘致【集荷】

- ①取扱機能の向上や港間連携を通じた輸入穀物の輸送コスト削減
- ②遊休ヤードを活用した新規貨物の誘致
- ③低コスト海上輸送による広域循環資源輸送ネットワークの構築

III. RORO サービスの利用促進

- ①長距離陸上輸送から海運への利用転換ニーズの発掘
- ②北部九州港湾の国際ROROとの連結による新たなニーズの発掘

IV. 新たな産業の誘致【創貨】

- ①輸出入貨物を創出する企業の立地促進(製造業・物流業の誘致)
- ②広域物流機能の強化(再掲)

V. 情報発信力の強化

- ①IT活用による物流促進策の検討と港PRの強化(港湾Webサイトの改良、港PR情報発信の仕組みづくり)

3港連携による駿河湾港のより一層の利用促進

みなと“白慢”

西伊豆町
産業建設課

～夕陽の港～

西伊豆町は、総面積105.52㎢、人口9,307人と小さな町ですが、海や山、川などの自然に囲まれ、堂ヶ島温泉を中心とした観光産業が盛んな町です。

伊豆半島では、最大規模を誇る海岸公営キャンプ場やダイバー憧れのダイビングスポットである黄金崎海岸・安良里沖・浮島沖など観光スポットが目白押しです。

夕陽の名所も数多くあり、駿河湾に沈む夕陽により黄金色に輝く波は、人々を魅了します。

宇久須港は、沼津方面からの海上交通の玄関口として、また、背後の山から採取されるガラス原料「硅石」の積出港として発展してきました。このような背景から、西伊豆町はガラス文化の里として観光を展開しており、ガラスをテーマにした美術館である黄金崎クリスタルパークや、クリスタルビーチと名付けられた海水浴場があり、多数のガラス工芸家も住んでいます。黄金崎は、美しい夕陽を浴び岬全体が金色に輝く夕陽の名所です。岬全体が公園となっており、遊歩道や芝生公園、展望台、ダイビングポイントなど多彩な設備が整備されています。最近では、休憩所「こがねすと」が平成25年4月にオープンし、黄金崎を訪れた人々の交流の場となっております。黄金崎コレクションガーデンでは、菜の花やヘメロカリスなど四季折々の花を楽しむことができます。



地方港湾 宇久須港



黄金崎



こがねすと



大田子海岸

大田子海岸は、ロマンチックな夕陽のスポットで、2010年には、夕陽展望所ができました。「メガネッコ」と呼ばれるユニークな形をした奇岩が沖に浮かび、夕陽がシルエットを創り出すその様は心をとらえて離しません。さらに、大田子海岸は、「日本の夕陽百選」にも選ばれています。

堂ヶ島海岸は、不思議な形をした岩や島が点在するエリアで、その間を船で遊覧することができます。遊覧船に乗ってみることのできる天窓洞は、天井にあいた穴から光が差し込み、海面に反射して、神秘的に輝く様は感動的です。さらには、最近では、ジオサイトとしての名所でもあり、世界的にもまれな、海底火山の美しく多様な地層断面が観察できます。夕陽の名所でもあり、数多くの人々が訪れています。



堂ヶ島海岸



トンボロ現象

干潮時には、海岸から三四郎島へ幅30メートルの石の橋ができ、島と陸がつながる珍しい自然現象「トンボロ」を見ることができます。昭和58年に県の天然記念物に指定されています。

西天城高原は、標高750mから駿河湾を一望できる高原で、そこから見る景色は絶景です。さらに、伊豆では珍しい牛の放牧が見られます。コテージも併設されており、泊まっても楽しいスポットです。併設されている、「牧場の家」では、ラーメンやカレーなどの軽食や濃厚なソフトクリームなどが景色を見ながら食べることができます。



西天城高原

～港こぼれ話～

特定地域振興重要港湾 …読み物「沼津港の起死回生」



元静岡県建設部河川砂防局技監
元静岡県土木部田子の浦港管理事務所長
竹下 博実

キーワード

休止港湾、200億円、書生たち、HACCP、狩野川埋立、アユカケ、浮上式防波堤

1. ことのはじまり

「休止港湾」というのはもう投資的経費はかけません、という致命的宣告であります。

沼津港が休止港湾とはトンデモナイ「何とかしにゃあなんにゃーら」と騒いだ結果が「特定地域振興重要港



運輸大臣視察(平成12年)(写真提供:沼津埠頭(株))



大臣、知事、市長(平成12年)(写真提供:沼津埠頭(株))

湾」という時限商品でした。年間売上200億円という地方市場ではダントツ沼津魚市場(株)と外港の主沼津埠頭(株)を双発エンジンとして新局面の切り開きに掛かりました。この急展開、遠藤三郎という戦後の大物政治家(建設大臣)の書生だった人々による一連の政治力学が縦横に働いて多少の無理は世の常というヘイチャラ精神で周りを動かして行きます。運輸大臣をはじめ、県知事や市長も駒のように曳き出され、どういう関わりなのかびっくり大御所建築家、名物芸大教授なども引っ張りこむ。「沼津の文化をここに集約する!」という某の執念が沼津港振興ビジョンの下絵になっています。国が決めた休止港湾を生き返らせることなど役人の常識では100年掛かってでもできません。

2. 狩野川を埋める

(当時の臨場感を伝えるため敢えて現在形で語ります)

内港は千本浜の背後を掘り込んだため用地が少なく、ウォーターフロント開発しようとするればエプロン背後の上空展開しかない。何度も焼き直された地元プランを見せられるが水産庁事業が目立つ主客転倒もの。そこで強気の沼津魚市場と地主(県)のウォーターフロント開発との陣取り合戦が始まる。ここに登場するのがHACCP(※)。鮮魚が売り物の魚市場としてはHACCP対応を急ぎたいが平面レイアウトを描くと電気フォークリフトの動線や魚種別の競り場配置や全国から集まる大型トラックとのスムーズな荷役をする駐車スペースなど到底確保できない。既存敷地ではHACCP対応しようがない。片や「観光」をテーマとする地域振興重要港湾は食道街に近い市場敷地が欲しい。魚市場は食道街との連携は必要ないのだから外港に移転できないか、いやいや道路を挟んだ食道街には市場関係者が多く冷凍冷蔵庫からも離れるわけにはい

かない。そもそも外港には鉄クズや砂利など埃発生物が年中置いてあって鮮魚市場は忌避。それでは既存魚舎の半分を譲ってくれ、代わりは冷蔵庫の横に確保するから、ということで一応の折り合いをつける。さあ、これからが大変。HACCP対応の用地幅を確保するために内港を埋めると航路を塞ぐ、定期航路の操船回頭ができないなど港湾エリアでは無理なことが分かってくる。ここで某曰く、「狩野川側に少し出せば」…トンデモナイ!ところがこれが現実味を帯びてくる。河川側が話を聞くという。その代わり代替性皆無を立証せよという。要するに「他にやりようが本当はないのか」と。結果は不整形ながら最大幅十数メートル(?)河川埋立が承認される。不等流計算では対岸は我入道海岸の導流堤で天端も低く洪水時には越流して河道は無敵大になることや直上流に障害物が色々あってこれが災い(幸い?)して条件つきながら影響なしとされる。これは港湾と河川の協議事例からすれば異例なことで水理上問題なしとはいえ、地域振興というローカルマターで天下の狩野川に手をつけるというのは破天荒なことです。ところが絶滅危惧種のアユカケというアユの天敵がいて再び暗雲。県大の先生を訪ねると「アレは生息地を追い出されても石ころがあればどこでも大丈夫。擬態が却って乱獲のもと、美味しいし。」本質を見極める金言をいただき意気揚々と帰る。

3. 浮上式防波堤

港口の拡幅について原海岸の波浪データを使って検討したがうねりが支配的で小周期の風波はうねりに隠れて実際より過小評価される。地域風のデータが別途必要。河口デルタがあり大型船の進入困難な沼津港の港口を広げたいと絵に描いた西防延伸は200億円と試算されビジョンから外された。地形的に防波堤が伸ばせない港には浮上式防波堤の実用化が待ち遠しい。

4. 今思うこと

公共事業の終焉で政治家が目立たなくなった分、バラマキが止んで価値あるものに金が回る。本事業は選択と集中の成功例で、港湾と水産で凌ぎを削ったのも相乗効果となった。港湾事業より水産事業が多く当て外れの向きもあるがイーノ2階の食堂からは某が力説した風景が広がる…牧水の愛した沼津の海。“みなとオアシス”として狙いを大きく越えて150万人の観光スポット。誰か松崎新港へ定期便出してくれませんか。クルーザーでもいいですけど。(お願い)

※HACCP(ハサップ)とは、食品の原料の受け入れから製造・出荷までのすべての工程において、危害の発生を防止するための重要ポイントを継続的に監視・記録する衛生管理手法。
Hazard Analysis Critical Control Pointの頭文字をとったもので、「ハセップ」ともよばれる。



イーノ食堂からの眺め

港湾関係行事予定

(平成25年8月1日～平成26年1月31日)

日 程	内 容
毎月第1日曜日	海湖館朝市(湖西市)
8月1日(木)～4日(日)	あたまビール祭り(熱海市 親水公園)
8月2日(金)～4日(日)	第66回 清水みなと祭り(8/2・3港かつぼれ総おどり、8/4海上花火大会)(静岡市)
8月3日(土)	伊豆山温泉納涼海上花火大会(熱海市 伊豆山港)
8月4日(日)	御前崎みなと夏祭2013(御前崎市 マリンパーク御前崎)
8月4日(日)	沼津千本浜トライアスロン大会・チームケンスカップトライアスロン駅伝大会(沼津市 千本浜)
8月5日(月)・8日(木)・20日(火)・25日(日)・31日(土)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海港)
8月8日(木)	弓ヶ浜花火大会(南伊豆町湊 弓ヶ浜海岸)
8月10日(土)	按針祭海の花火大会(伊東市 伊東港海岸)
8月10日(土)	相良海上花火大会(牧之原市 さからサンビーチ)
8月14日(水)・15日(木)	安良里夏祭り(西伊豆町安良里港) 14日 花火大会
8月14日(水)	焼津港海上花火大会(焼津市 焼津港外港)
8月15日(木)・16日(金)	田子港祭り(西伊豆町田子港) 15日 花火大会
8月16日(金)	網代温泉海上花火大会(熱海市 網代湾)
8月16日(金)	伊豆多賀温泉 流灯祭(熱海市 多賀湾)
8月18日(日)	伊豆多賀温泉百八体かがり火&花火大会(熱海市 多賀湾)
8月18日(日)～21日(水)	土肥サマーフェスティバル(伊豆市 土肥港湾内)
8月21日(水)・22日(木)	伊豆山温泉さざえ祭り&花火大会(熱海市 伊豆山港)
8月24日(土)・25日(日)	コカ・コーラセントラルジャパンカップ2013(御前崎市 マリンパーク御前崎)
8月24日(土)	えんばい朝市(浜松市 舞阪漁港)
8月24日(土)・25日(日)	弓ヶ浜ビーチバレーフェスタ(南伊豆町湊 弓ヶ浜海岸)
8月24日(土)・25日(日)	WIND BLOW(ウインドブロー)(牧之原市 相良シーサイドパーク)
9月1日(日)	第3回日本国際マスターズOWSレース(南伊豆町 弓ヶ浜)
9月7日(土)・8日(日)	アタミアロハフェスティバル2013(熱海市 親水公園)
9月7日(土)・8日(日)	ビッグシャワー海洋浴の祭典(下田市 吉佐美大浜海岸)
9月8日(日)	まきのはらマキティー カヤックフィッシング ジャパンカップ2013(牧之原市 地頭方海浜公園)
9月14日(土)～10月26日(土)	熱海湾ファンタスティッククルーズ(熱海市 熱海湾 毎週土曜日及び9月15日(日)・22日(日)・10月13日(日))
9月16日(月・祝)	秋季熱海海上花火大会(熱海市 熱海港)
9月22日(日)	第13回田子の浦港漁協しらす祭り(富士市 田子の浦漁業協同組合)
9月22日(日)	オータムフェスト in やいづ2013(焼津市 焼津港内港)
10月13日(日)	清水港マグロまつり2013(静岡市 JR清水駅みなと口周辺)
10月13日(日)	南伊豆アクアスロン弓ヶ浜大会(南伊豆町湊 弓ヶ浜海岸)
10月17日(木)～21日(月)	帆船「日本丸」入港(静岡市 日の出埠頭)
10月20日(日)	清水港興津まつり(静岡市 興津国際流通センター)
10月24日(木)	港湾を考える全国集会(砂防会館)
11月2日(土)	小川港さばまつり(焼津市 小川港)
11月17日(日)	千本浜ファミリーマラソン大会(沼津市 千本浜防潮堤)
11月下旬	第3回御前崎マリンパークマラソン(御前崎市 マリンパーク御前崎)
12月8日(日)・15日(日)・23日(月・祝)	忘年熱海海上花火大会(熱海市 熱海港)
12月22日(日)	とっておき冬花火大会(伊東市 伊東港海岸)
平成26年1月1日(水・祝)	初日なぶらイベント(御前崎市 観光物産会館)
平成26年1月2日(木)	漁船乗り初め(西伊豆町 仁科港・安良里港)

編集後記 |

夏真っ盛り!!港周辺が賑わう季節です。皆様いかがお過ごしですか?

「静岡みなと通信」は2003年3月創刊から、今回で20号の発行となります。創刊から10年の月日がたちましたが、たくさんの方々のご協力を得て、発行を続けることができました。これからもよりよい紙面づくりに努めていきますので、今後とも「静岡みなと通信」をご愛読いただきますようお願いいたします。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。

関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

静岡みなと通信

編集・発行 静岡県港湾振興会

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部港湾局内

TEL.054-221-3052 FAX.054-221-2389 E-mail:shizu.kouwan@gmail.com